

山岳遭難発生状況

(令和8年1月1日～令和8年5月24日)
地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況（暫定値）（令和7年数値は1月1日からの同期間数値）

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令和8年	79	17	2	25	46	90
令和7年	95	22	3	45	41	111
前年同期比	-16	-5	-1	-20	5	-21

2 山域別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	
北ア	槍穂高	3	3.8%	0	0	2	1	3
	後立山	28	35.4%	11	1	5	16	33
	その他	5	6.3%	1	0	4	1	6
計	36	45.6%	12	1	11	18	42	
中央アルプス	8	10.1%	0	0	2	7	9	
南アルプス	0	0.0%	0	0	0	0	0	
八ヶ岳連峰	11	13.9%	3	0	3	7	13	
その他の山岳	24	30.4%	2	1	9	14	26	
計	79		17	2	25	46	90	

3 態様別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
転・滑落	21	26.6%	6	0	17	0	23
転倒	5	6.3%	0	0	5	0	5
病気	6	7.6%	3	0	0	3	6
道迷い	14	17.7%	0	0	0	18	18
落石	0	0.0%	0	0	0	0	0
雪崩	3	3.8%	2	0	1	0	3
落雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	9	11.4%	2	0	0	7	9
不明・他	21	26.6%	4	2	2	18	26
計	79		17	2	25	46	90

4 男女別・年齢別比率

区分	男性					(人)比率	女性					(人)比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	0	0	1	5	6	25	0	0	0	2	2	10	8	35
20代	1	0	2	11	14		0	0	1	4	5		19	
30代	1	0	0	4	5	40.3%	1	0	0	2	3	35.7%	8	38.9%
40代	4	0	4	2	10	23	1	0	1	0	2	12	12	35
50代	5	0	3	5	13	37.1%	0	1	5	4	10	42.9%	23	38.9%
60代	1	0	3	5	9	14	2	0	2	1	5	6	14	20
70以上	1	1	3	0	5	22.6%	0	0	0	1	1	21.4%	6	22.2%
計	13	1	16	32	62		4	1	9	14	28		90	
比率	68.9%						31.1%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生 (5/18~5/24)

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
5月20日	中央アルプス 檜尾岳	男	19	負傷	滑落	5/17、単独で中央アルプスへ入山し、何らかの原因で、行方不明となっていたもの(5/20認知)。5/20自力下山。
5月23日	京ヶ倉	女	51	負傷	転倒	2名パーティで下山中、スリップし、転倒、負傷
5月23日	中央アルプス 南木曾岳	女	28	負傷	転倒	2名パーティで下山中、何らかの原因で、転倒、負傷
5月24日	三宝山	女	60	無事救出	疲労	19名パーティでツアー登山中、疲労により、行動不能

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では、4件の山岳遭難が発生しました。

特に、標高2000m以下のいわゆる「里山」と呼ばれる低山での遭難が相次ぎました。

里山は市街地からのアプローチが容易で、山頂からの眺望が良く、比較的短時間で登頂できるため人気があります。

初夏のこの時期は、低山でも比較的涼しく、登山に適した環境であり、手ごろに登山を楽しむ方が増えますが、一方で、里山は、登山道が笹で覆われたり、踏み跡が不明瞭なほか、階段やステップが破損していたり、目印や看板が分かりづらい等、登山道が十分に整備されていない場合があります。

場所によっては、登山道が急峻であることも多く、道迷いや滑落のリスクは、高山と同じです。

また、低山は樹林が濃く、遭難発生時にヘリコプターで捜索した場合、上空から発見できない場合や、開けた場所が少なく、直接救助できない状況もあります。

低山であっても、十分な装備を持って入山し、体力的にも余裕ある行動を推奨します。